聖書日課『からし種』2024.2.4－2.11

2月4日 （日） 詩編 82編	**「いつまであなたたちは不正に裁き／神に逆らう者の味方をするのか。弱者や孤児のために裁きを行い／苦しむ人、乏しい人の正しさを認めよ」（2－3節）。**神がこのように宣言されたと歌われている。とすれば、戦争はまさに神に逆らう不正な裁き方と言えよう。弱者が死傷し、子どもが親を失い、苦しむ人、乏しい人が軽んじられるからだ。
5日 （月） 詩編 83編	**「彼らが悟りますように／あなたの御名は主／ただひとり／全地を超えて、いと高き神であることを」（19節）。**周辺諸国の「あの民を国々の間から断とう（5節）」という敵意を感じた詩人が神に激しく訴える。その心情を容れつつも、「神を知らないのは誰でも同じ。そんな全ての人に、神は恥や恐れではなく愛と救いを通じて御自身を悟らせてくださる」と伝えたい。
6日 （火） 詩編 84編	**「主の庭を慕って、わたしの魂は絶え入りそうです…あなたの祭壇に、鳥は住みかを作り／つばめは巣をかけて、雛を置いています」（3－4節）。**神殿礼拝に足を運べない人のせつなる求め。それでも、私たちは聖霊によって内なる神の宮をいただいている。それはからし種の信仰から神に育てられた大きな木、空の鳥が来て枝に巣を作る（マタイ13：32）。
7日 （水） 詩編 85編	**「慈しみとまことは出会い／正義と平和は口づけし／まことは地から萌えいで／正義は天から注がれます」（11－12節）。**本日の詩編で「慈しみ」は神から私たちへ、「まこと」は私たちから神への誠実とも受け取れるが、聖書にはこれがすれ違う悲しみが繰り返し記される。双方が出会う時、「正義」と「平和」も、再会した友のように口づけを交わすのだろう。

メール配信登録メール　senfkorn.obc@gmail.com　　大井バプテスト教会

メール配信希望の方は名前とアドレスを明記の上、上記のアドレスまで

聖書日課『からし種』2024.2.4－2.11

8日 （木） 詩編 86編	**「主よ、あなたは情け深い神／憐れみに富み、忍耐強く／慈しみとまことに満ちておられる」（15節）。**本節は、出エジプト記34：6で主御自身が宣言された主なる神のアイデンティティーと言える。旧約聖書の中で人々は繰り返しここに帰るようだ。私たちも繰り返し「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された（ヨハネ3：16）」に帰れるように。
9日 （金） 詩編 87編	**「主は諸国の民を数え、書き記される／この都で生まれた者、と。歌う者も踊る者も共に言う『わたしの源はすべてあなたの中にある』と」（6―7節）。**まるで、一瞬の輝きの中に現れた幻のような賛歌。周辺諸国の敵意を訴える祈りの中に示された神の国の未来図のようだ。今もなお国々の紛争は続いているが、神の愛による和解と平和がどうか成るように。
10日 （土） 詩編 88編	**「主よ、わたしを救ってくださる神よ／昼は、助けを求めて叫び／夜も、御前におります。」（2節）。**本日の詩編のように聖書の信仰者も絶望し、「今、わたしに親しいのは暗闇だけです（19節）」とまで言う。しかし、絶対者なる神の存在だけは疑わず、神に呼びかけることをやめない信仰者の暗闇には、地平線の向こうから上がってくる光を予感させる何かがある。
11日 （日） 詩編 89編	**「それでもなお、わたしは慈しみを彼から取り去らず、わたしの真実をむなしくすることはない」（34節）。**「主の慈しみをとこしえに歌います」という告白から始まるこの詩編には「慈しみ」という言葉が七回出てくる。そこでは「主の慈しみ」は「主の真実の契約」と同義である。何があっても揺るがず崩れることのない「主の真実」によって今日私たちは生かされている。

大井バプテスト教会